

【資料 2-1】

坂出市
障がい者福祉計画および障がい福祉計画
アンケート調査
結果報告書
(一般市民用)

令和 8 年6月
坂出市

目次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 報告書の見方	1
II 調査結果	2
1 回答者について	2
(1)性別	2
(2)年齢	3
(3)身近な障がいのある人について	4
2 障がいがある人の福祉への関心について	9
(1)障がいがある人の福祉への関心について	9
3 障がいがある人の雇用について	11
(1)就労状態について	11
(2)就労支援について	13
4 障がいがある子どもについて	14
(1)就学の機会について	14
(2)望ましい環境について	15
5 障がいがある人に対する差別について	16
(1)差別や偏見について	16
(2)「障害者差別解消法」について	18
6 まちづくりについて	19
(1)地域共生社会について	19
(2)住みよいまちをつくるために必要なことについて	20
7 合理的配慮について	21
(1)「合理的配慮」について	21
8 文化芸術やスポーツについて	24
(1)文化芸術やスポーツについて	24
9 インクルーシブ教育について	25
(1)「インクルーシブ教育」について	25

10 ヤングケアラーについて	27
(1)身近なヤングケアラーについて.....	27
(2)ヤングケアラーへの支援について	29
19 自由記述	30

I 調査概要

1 調査目的

市民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向等を把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

(1)調査対象

調査対象者	抽出方法
坂出市内在住の18歳以上の住民	無作為抽出

(2)実施期間 令和8年3月9日～令和8年3月31日

(3)調査方法 郵送による配布・回収及びWeb調査

(4)配布・回収状況

配布数	有効回収数	有効回答率
1,000	474	47.4%

3 報告書の見方

(1)基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。

(2)質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。

(3)図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査結果

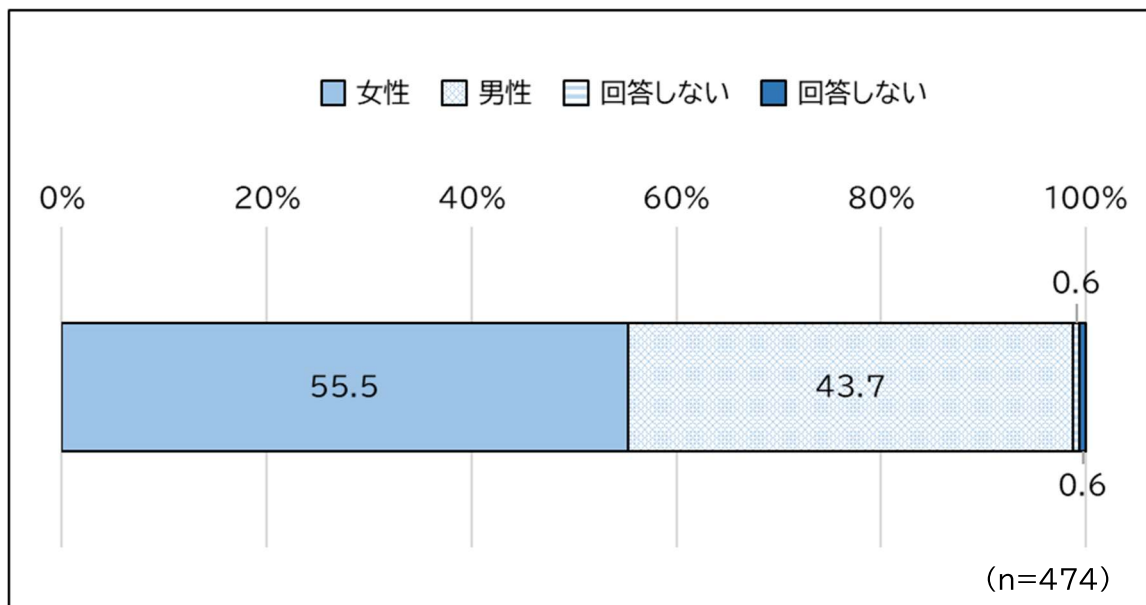
1 回答者について

(1)性別

問1 あなたの性別をおうかがいします。(1つに○)

対象者の男女比をみると、女性が多くなっています。

図表1 回答者の性別

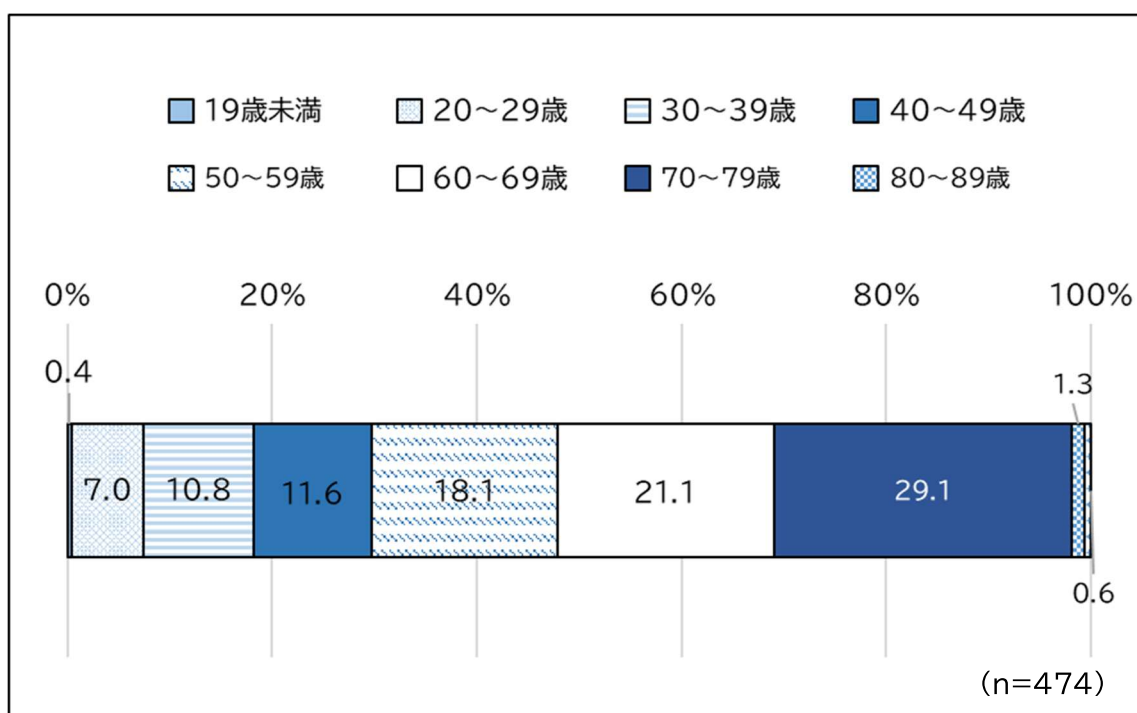


(2)年齢

問2 あなたの年齢は、満何歳ですか。(令和8年3月1日現在)

年齢をみると、「70～79歳」(29.1%)の割合が最も高くなっています。また「60歳以上」(51.5%)でみると全体の5割以上を占めています。

図表2 本人の年齢

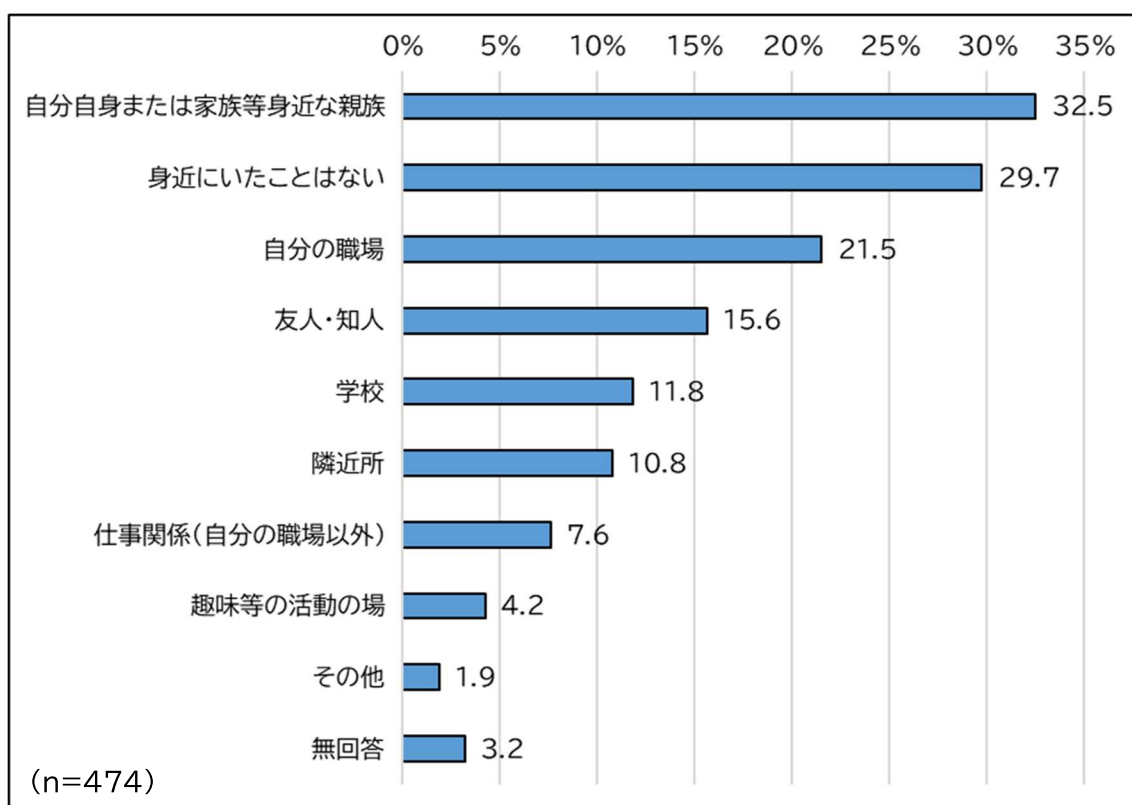


(3)身近な障がいのある人について

問3 あなたの身近に、障がいがある人がいますか、または、これまでにいたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

身近な障がいがある人についてみると、「自分自身または家族等身近な親族」(32.5%)の割合が最も高く、次いで「身近にいたことはない」(29.7%)、「自分の職場」(21.5%)、「友人・知人」(15.6%)、「学校」(11.8%)、「隣近所」(10.8%)と続いています。

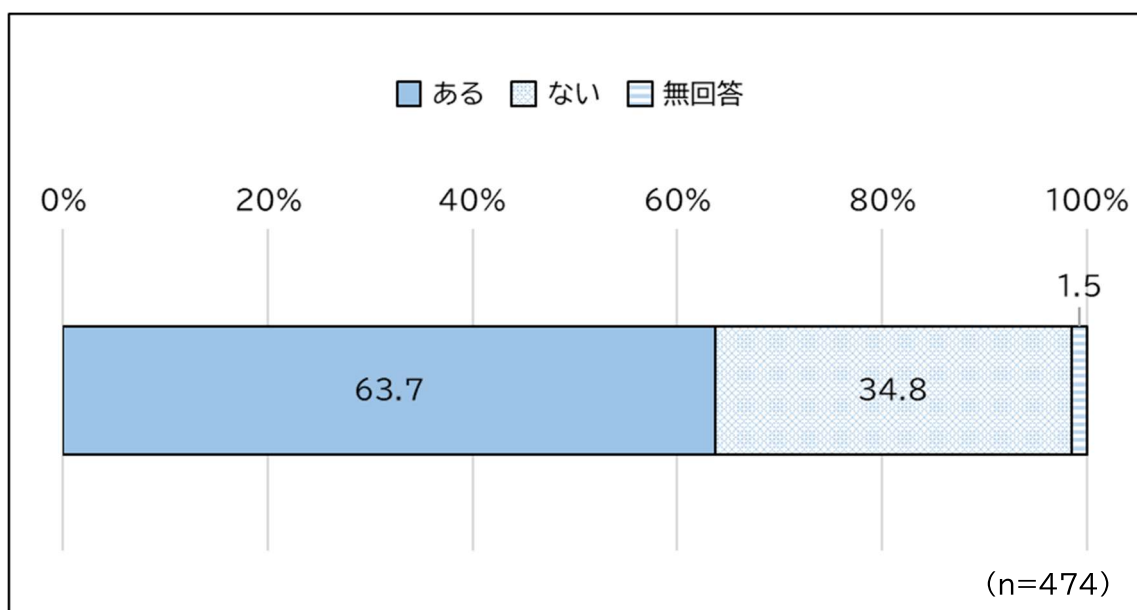
図表3 身近な障がいがある人について



問4 あなたは、障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがありますか。(1つに○)

障がいのある人と話したり、手助けをした経験についてみると、「ある」の割合が63.7%、「ない」が34.8%となっています。

図表4 障がいがある人と話したり、手助けをした経験について

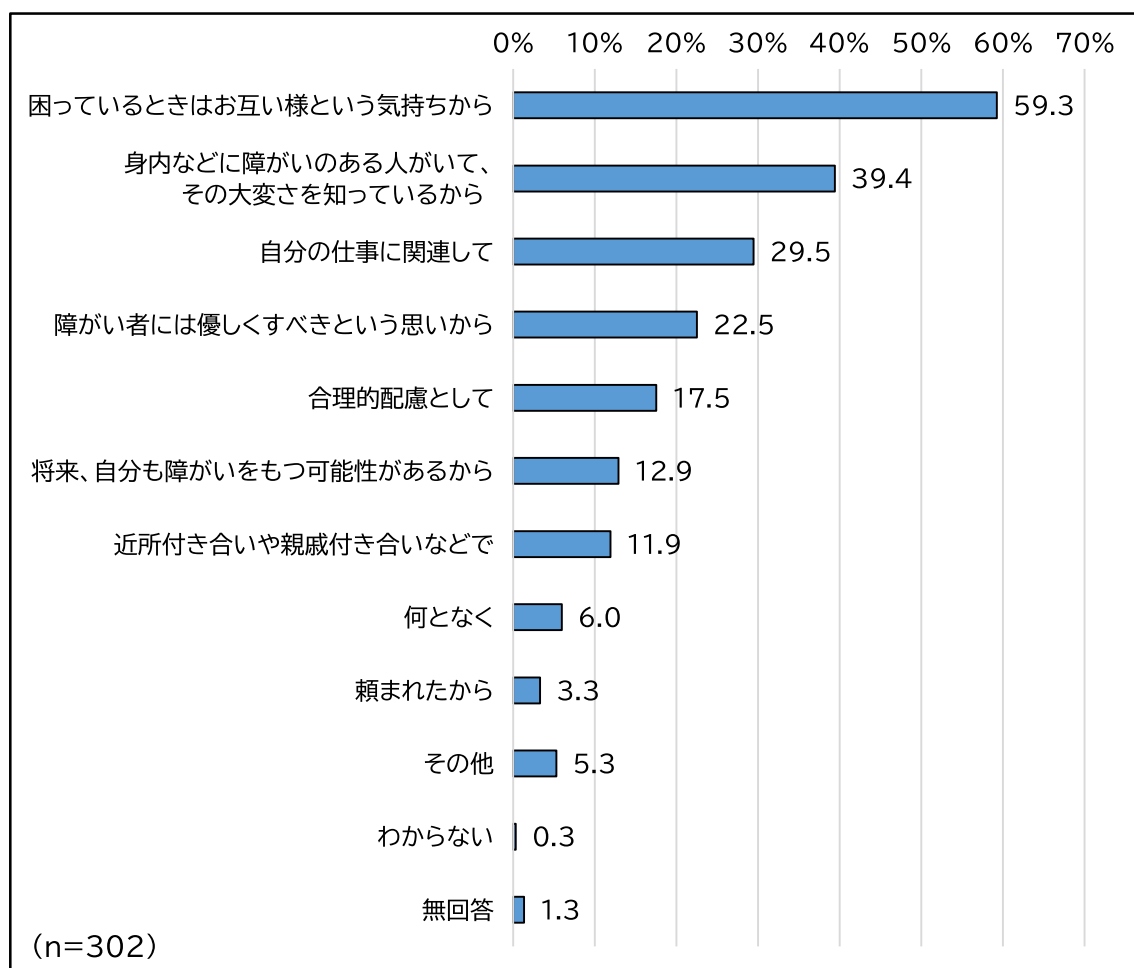


※問4で「ある」と回答した方

問4-1 それはどのような気持ちからでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

障がいのある人と話したり、手助けをした際の気持ちについてみると、「困っているときはお互い様という気持ちから」(59.3%)の割合が最も高く、次いで「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」(39.4%)、「自分の仕事に関連して」(29.5%)、「障がい者には優しくすべきという思いから」(22.5%)、「合理的配慮として」(17.5%)、「将来、自分も障がいをもつ可能性があるから」(12.9%)と続いています。

図表5 障がいのある人と話したり、手助けをした際の気持ちについて

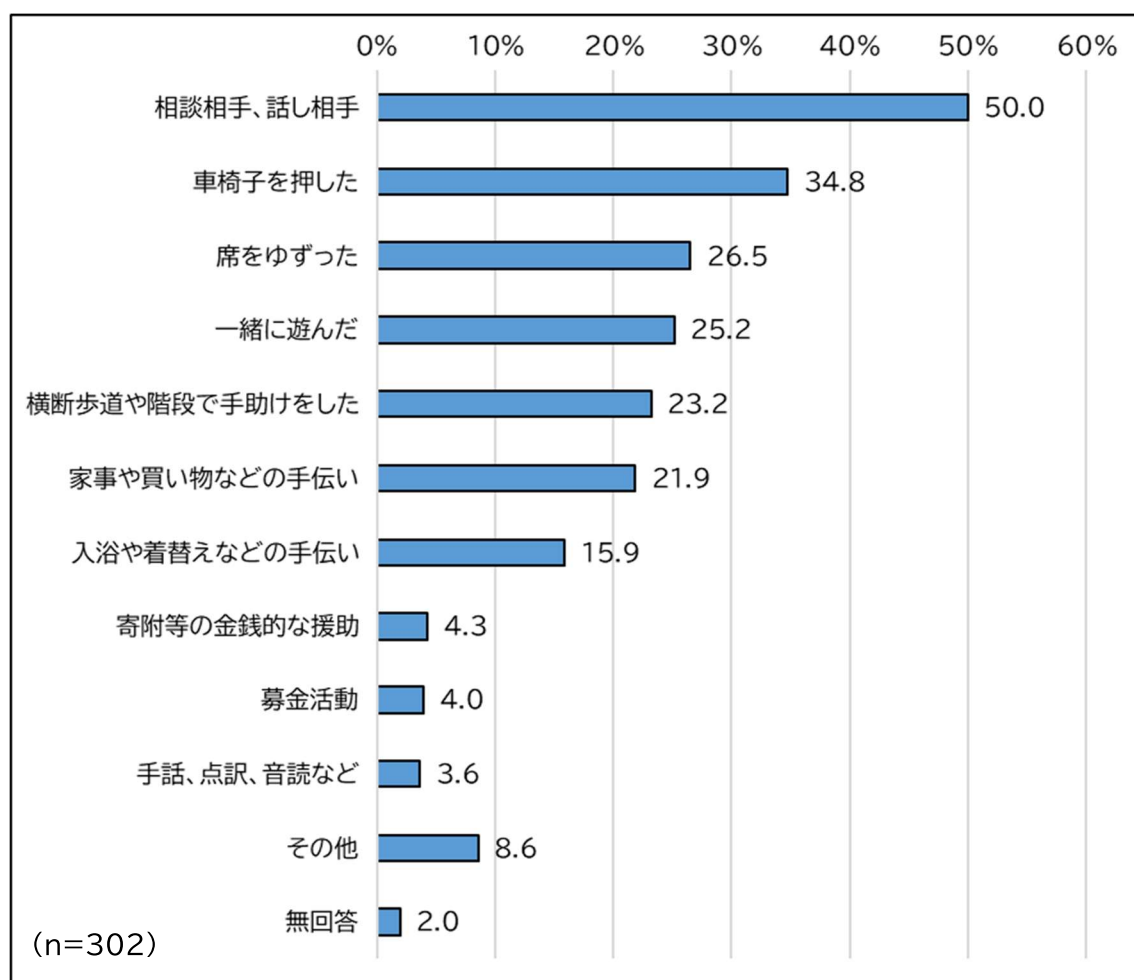


※問4で「ある」と回答した方

問4-2 それはどのような話や手助けでしたか。(あてはまるものすべてに○)

障がいのある人と話したり、手助けをした際の内容についてみると、「相談相手、話し相手」(50.0%)の割合が最も高く、次いで「車いすを押した」(34.8%)、「席をゆずった」(26.5%)、「一緒に遊んだ」(25.2%)、「横断歩道や階段で手助けをした」(23.2%)、「家事や買い物などの手伝い」(21.9%)と続いています。

図表6 障がいのある人と話したり、手助けをした際の内容について

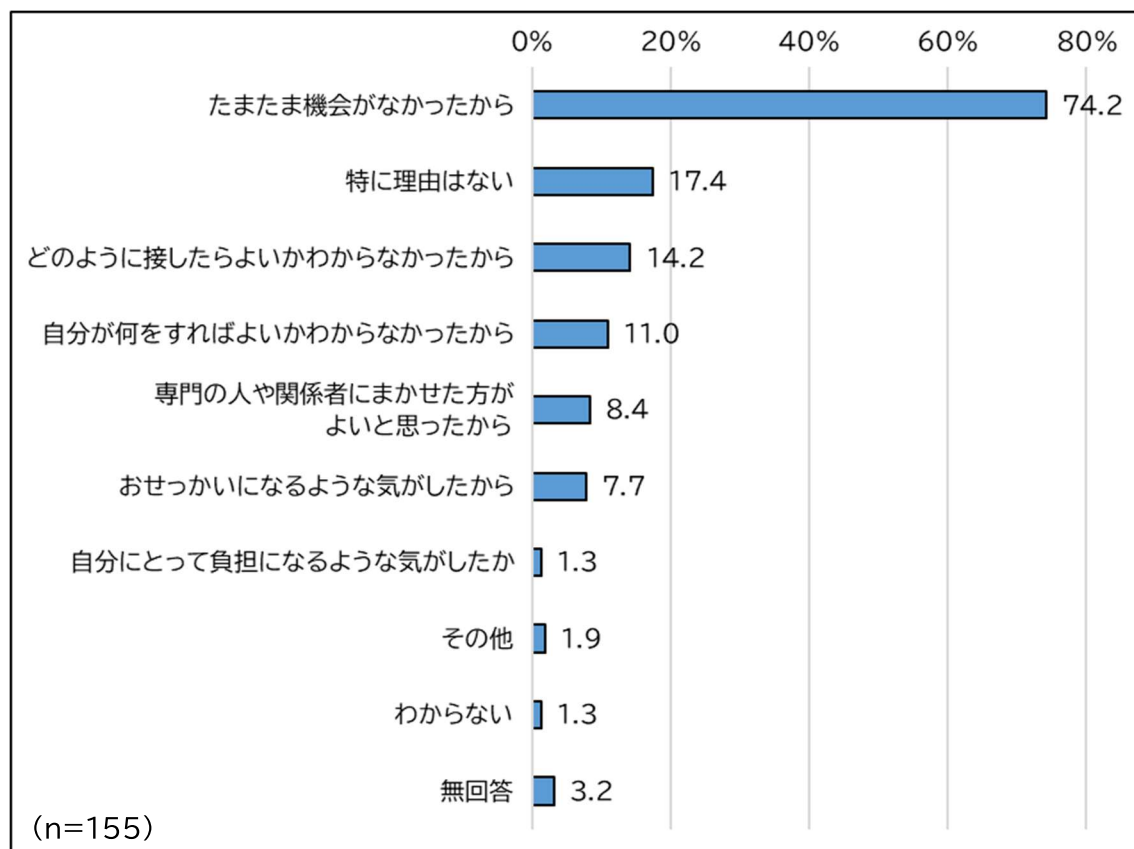


※問4で「ない」と回答した方

問4-3 なかったのはどうしてでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

障がいのある人と話したり、手助けをしたことがない理由についてみると、「たまたま機会がなかったから」(50.0%)の割合が最も高く、突出しています。次いで「特に理由はない」(17.4)、「どのように接したらよいかわからなかったから」(14.2)、「自分が何をすればよいかわからなかったから」(11.0)、「専門の人や関係者にまかせた方がよいと思ったから」(8.4)、「おせっかいになるような気がしたから」(7.7%)と続いています。

図表7 障がいのある人と話したり、手助けをしなかった理由について



2 障がいがある人の福祉への関心について

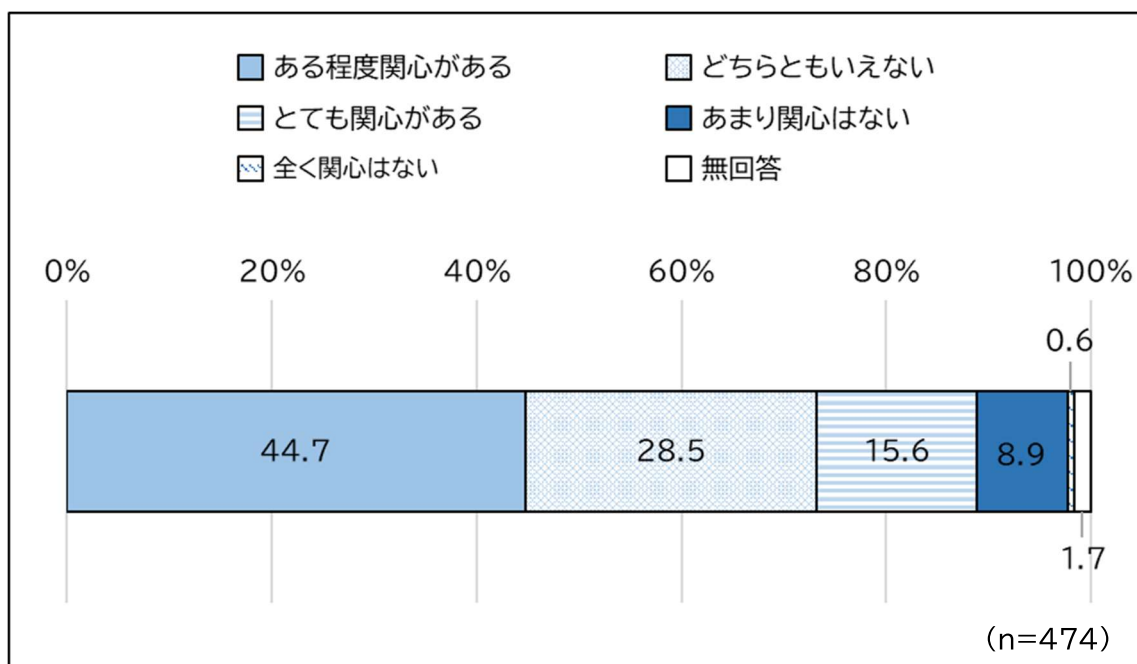
(1)障がいがある人の福祉への関心について

問5 あなたは、障がいがある人への福祉について関心をお持ちですか。(1つに○)

障がいがある人への福祉に対する関心についてみると、「とても関心がある」の割合が15.6%、「ある程度関心がある」が44.7%、「どちらともいえない」が28.5%、「あまり関心はない」が8.9%、「全く関心はない」が0.6%となっています。

また、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』人は60.3%となっている一方で、「あまり関心はない」と「全く関心はない」を合わせた『関心がない』人は9.5%と1割以下にとどまっています。

図表8 障がいがある人への福祉に対する関心について

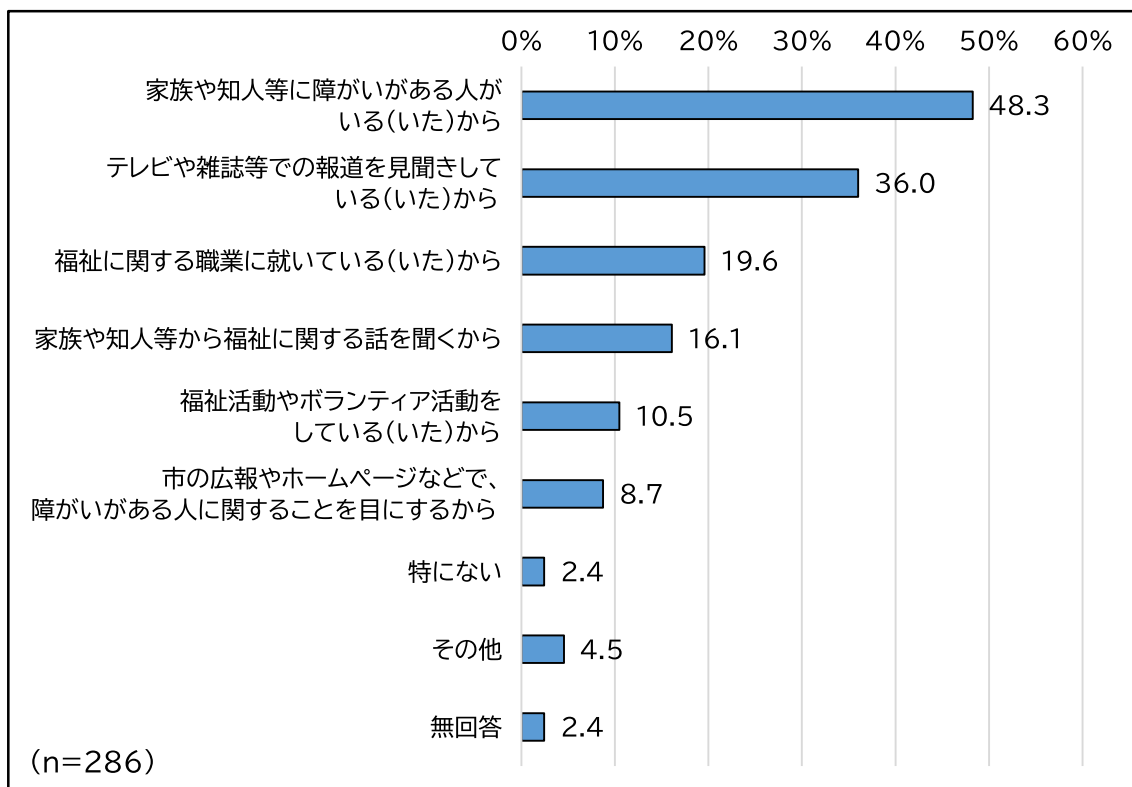


※問 5 で「とても関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した方

問6 障がいがある人の福祉に対して関心をお持ちなのは、どのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいがある人への福祉に対する関心がある理由についてみると、「家族や知人等に障がいがある人がいる(いた)から」(48.3%)の割合が最も高く、次いで「テレビや雑誌等での報道を見聞きしている(いた)から」(36.0%)、「福祉に関する職業に就いている(いた)から」(19.6%)、「家族や知人等から福祉に関する話を聞くから」(16.1%)、「福祉活動やボランティア活動をしている(いた)から」(10.5%)、「市の広報やホームページなどで、障がいがある人に関することを目にするから」(8.7%)と続いています。

図表9 障がいがある人への福祉に対して関心をもっている理由



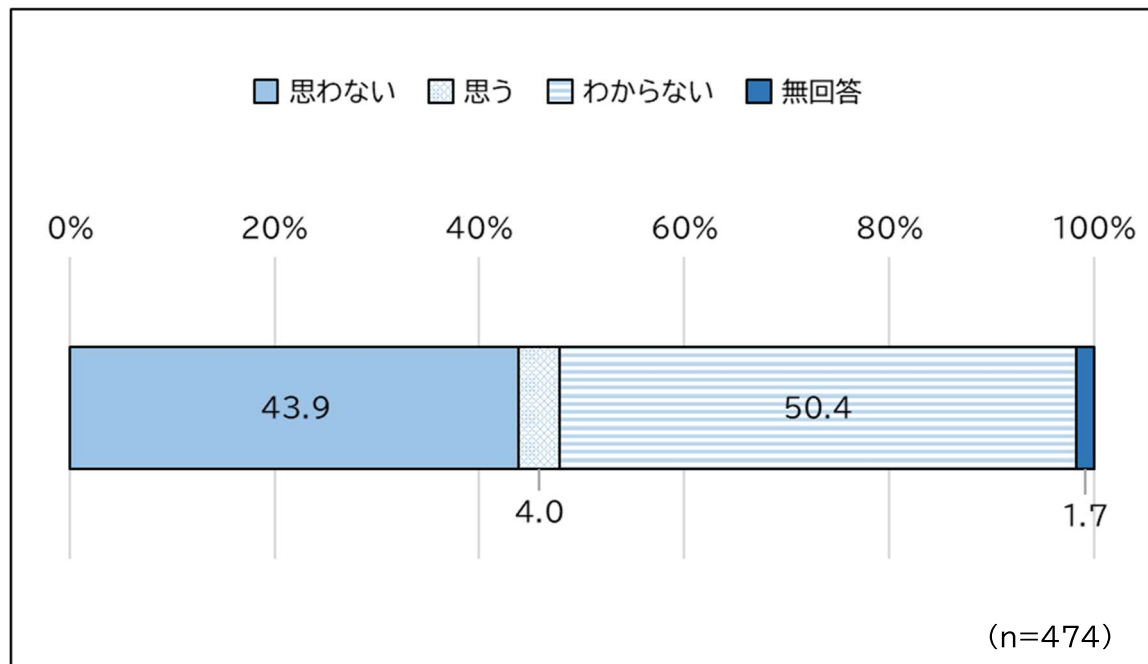
3 障がいがある人の雇用について

(1)就労状態について

問7 あなたは、障がいがある人の職についている状態は十分足りていると思いますか。
(1つに○)

障がいがある人の職についている状態についてみると、「(十分足りていると思う)」の割合が4.0%、「(十分足りていると思わない)」が43.9%、「わからない」が50.4%となっています。

図表10 障がいがある人の職についている状態について

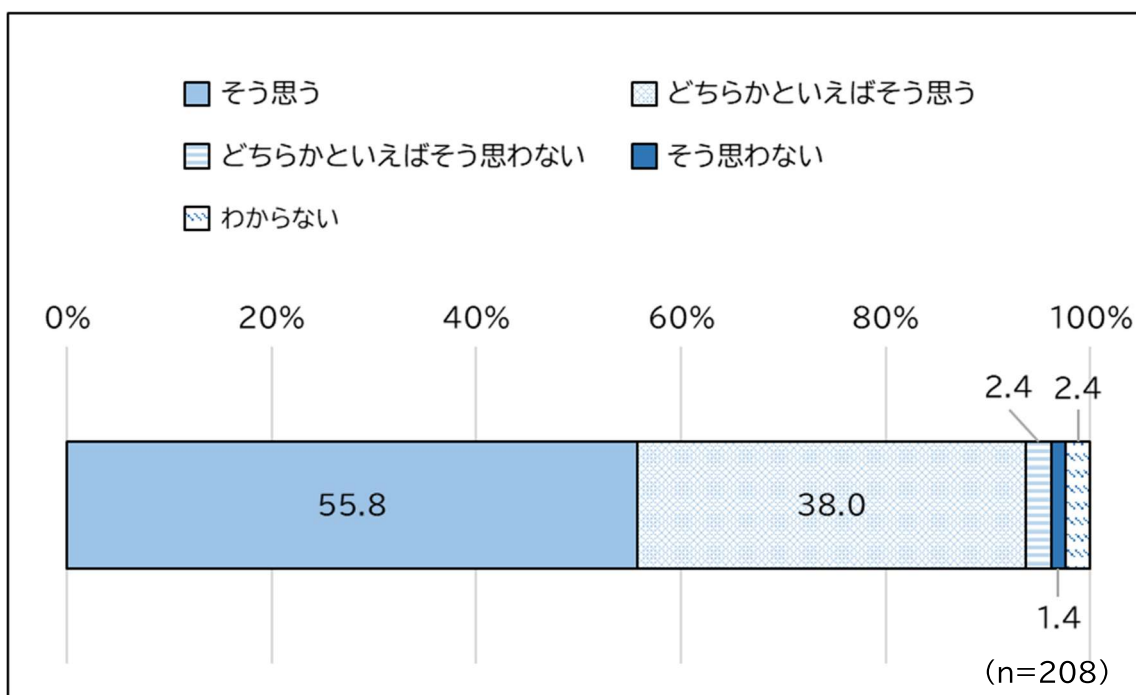


※問7で「思わない」と回答した方

問8 あなたは、障がいがある人の就労機会は現状より増えるべきだと思いますか。(1つに○)

障がいがある人の就労機会が現状より増えるべきかどうかについてみると、「そう思う」の割合が55.8%、「どちらかといえばそう思う」が38.0%、「どちらかといえばそう思わない」が2.4%、「そう思わない」が1.4%、「わからない」が2.4%となっています。

図表11 障がいがある人の就労機会が現状より増えるべきかどうかについて

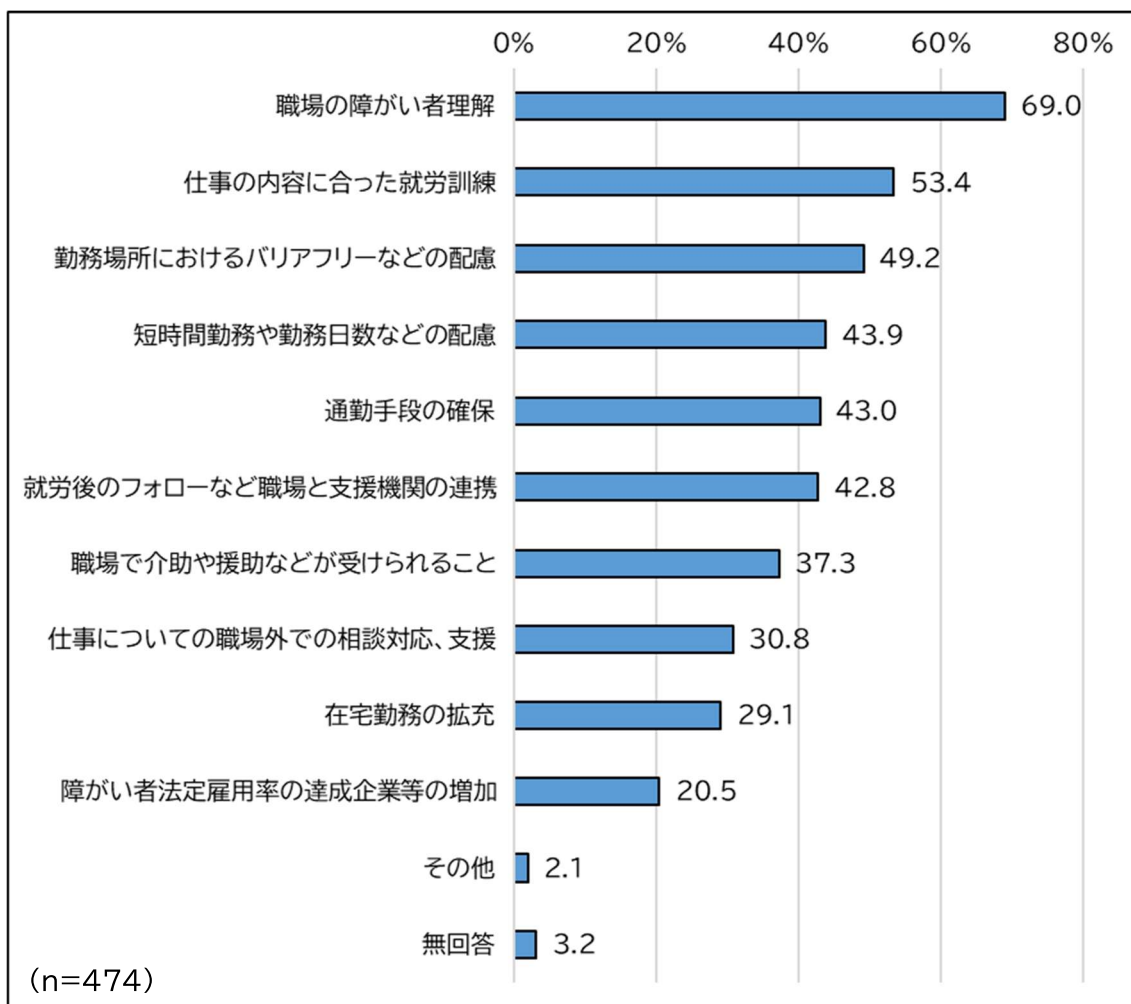


(2)就労支援について

問9 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

障がい者の就労支援として必要だと思うことについてみると、「職場の障がい者理解」(69.0%)の割合が最も高く、次いで「仕事の内容に合った就労訓練」(53.4%)、「勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮」(49.2%)、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」(43.9%)、「通勤手段の確保」(43.0%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(42.8%)と続いています。

図表12 障害者の就労支援として必要だと思うこと



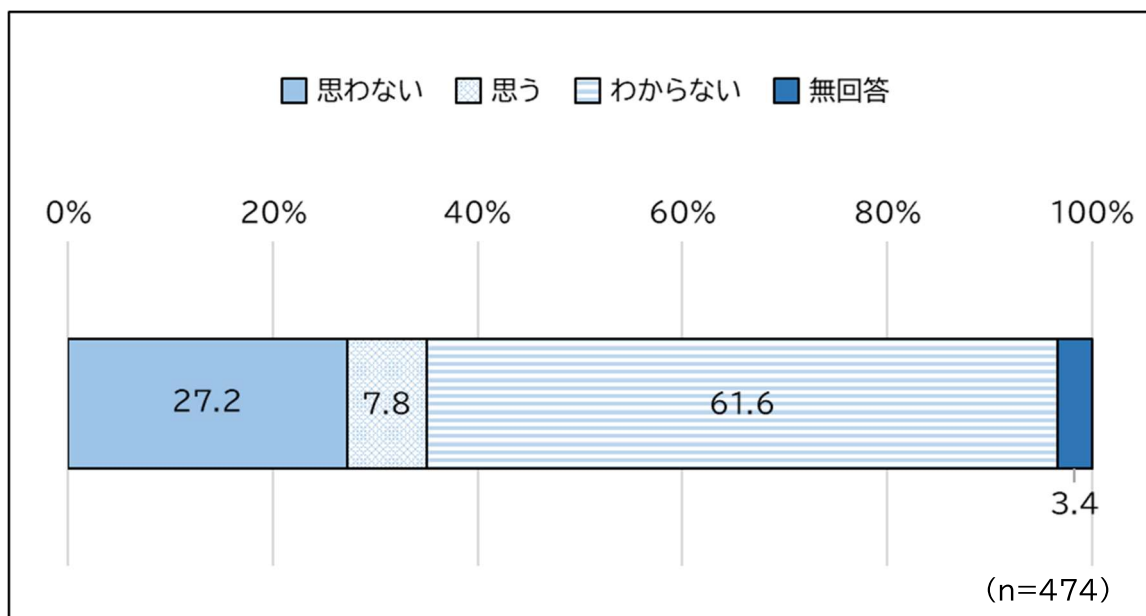
4 障がいがある子どもについて

(1)就学の機会について

問 10 あなたは、障がいがある子どもの就学の機会が十分だと思いますか。(1つに○)

障がいがある子どもの就学の機会が十分であるかどうかについてみると、「思う」の割合が7.8%、「思わない」が27.2%、「わからない」が61.6%となっています。

図表13 障がいがある子どもの就学の機会が十分であるかどうかについて

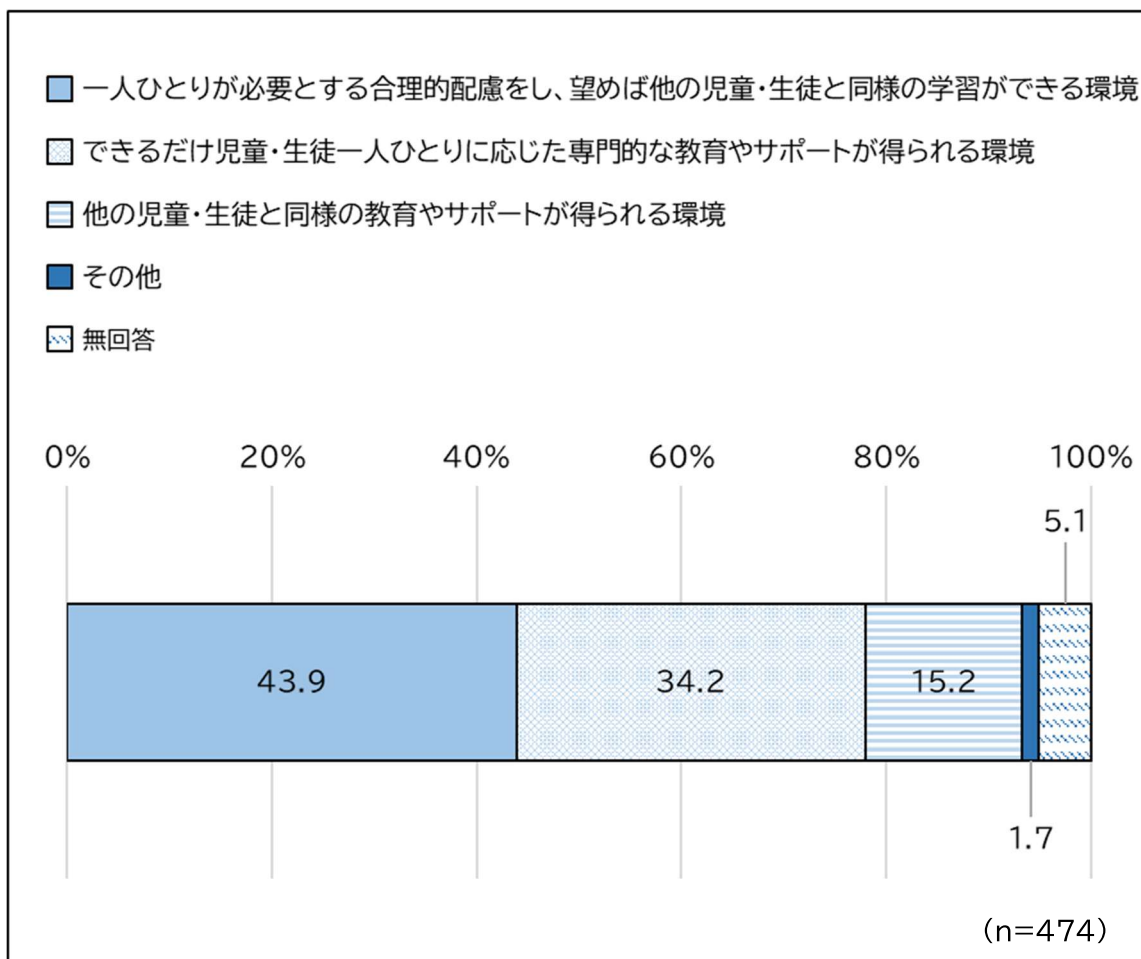


(2)望ましい環境について

問 11 あなたは、障がいがある子どもが教育を受ける時、望ましい環境とはどのようなものだと思いますか。(1つに○)

障がいがある子どもが教育を受ける時、望ましいと思う環境についてみると、「一人ひとりが必要とする合理的配慮をし、望めば他の児童・生徒と同様の学習ができる環境」(43.9%)の割合が最も高く、次いで「できるだけ児童・生徒一人ひとりに応じた専門的な教育やサポートが得られる環境」(34.2%)、「他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」(15.2%)と続いています。

図表14 障がいがある子どもが教育を受ける時、望ましいと思う環境



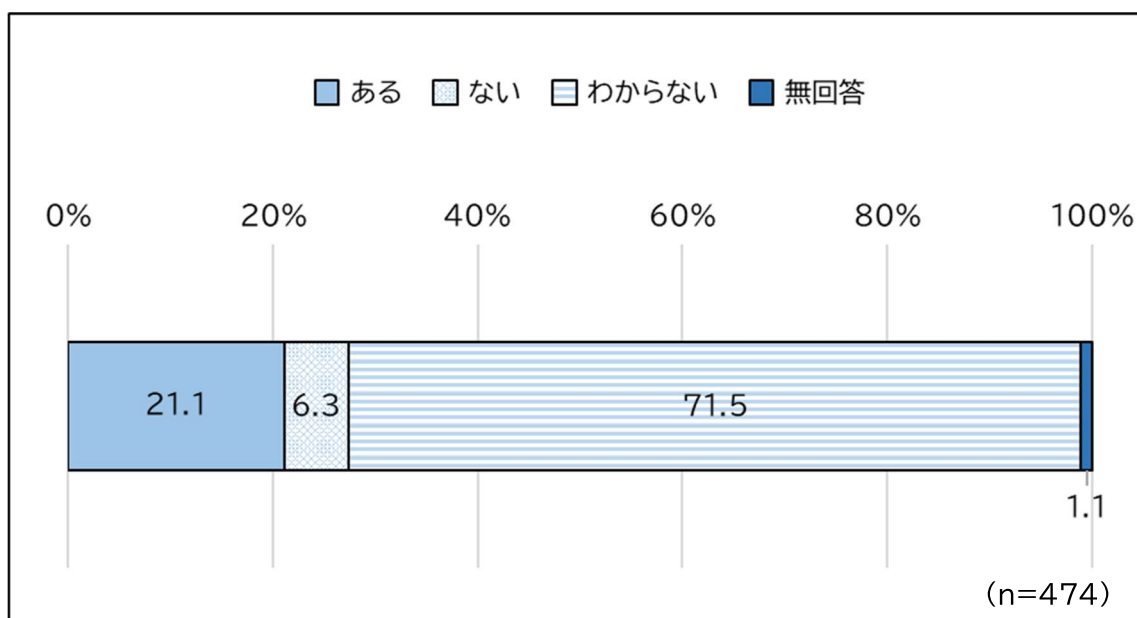
5 障がいがある人に対する差別について

(1)差別や偏見について

問 12 あなたは、坂出市において障がいがある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。坂出市全体としてお考えください。(1つに○)

障がいがある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があるかどうかについてみると、「ある」の割合が21.1%、「ない」が6.3%、「わからない」が71.5%となっています。

図表15 障がいがある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があるかどうかについて

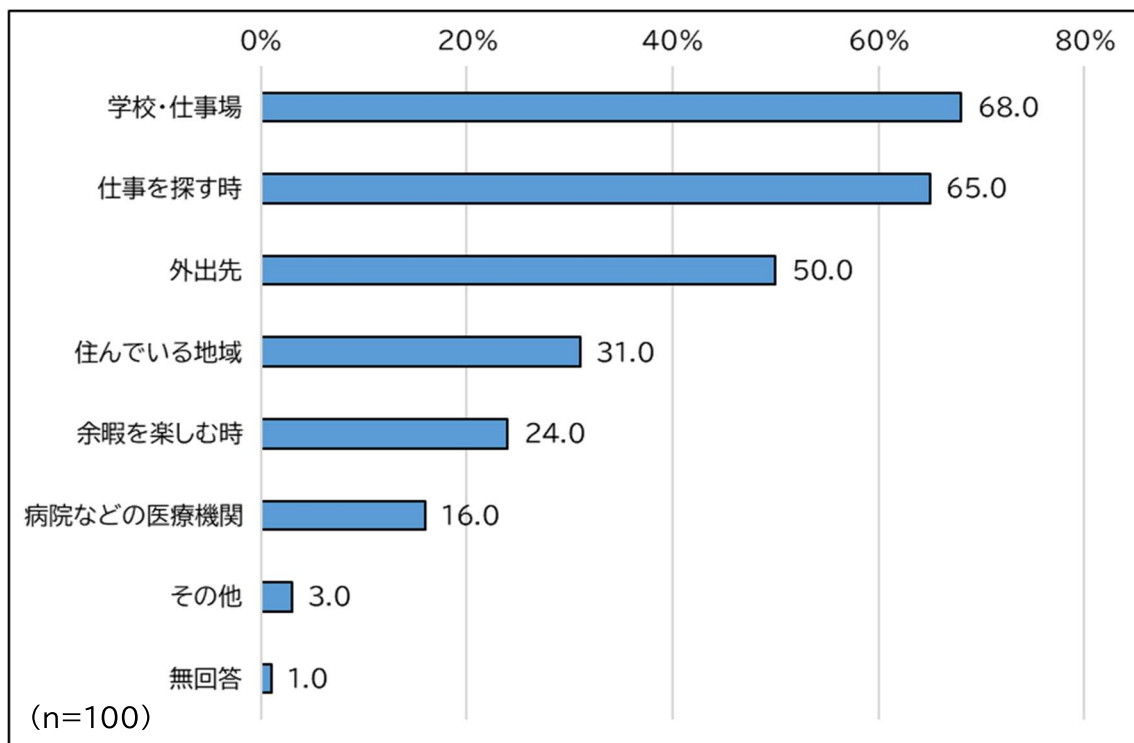


※問12で「ある」と回答した方

問13 どのような場面で、障がいがある人に対する差別や偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

障がいがある人に対する差別や偏見の場面についてみると、「学校・仕事場」(68.0%)の割合が最も高く、次いで「仕事を探す時」(65.0%)、「外出先」(50.0%)、「住んでいる地域」(31.0%)、「余暇を楽しむ時」(24.0%)、「病院などの医療機関」(16.0%)と続いています。

図表16 障がいがある人に対する差別や偏見の場面

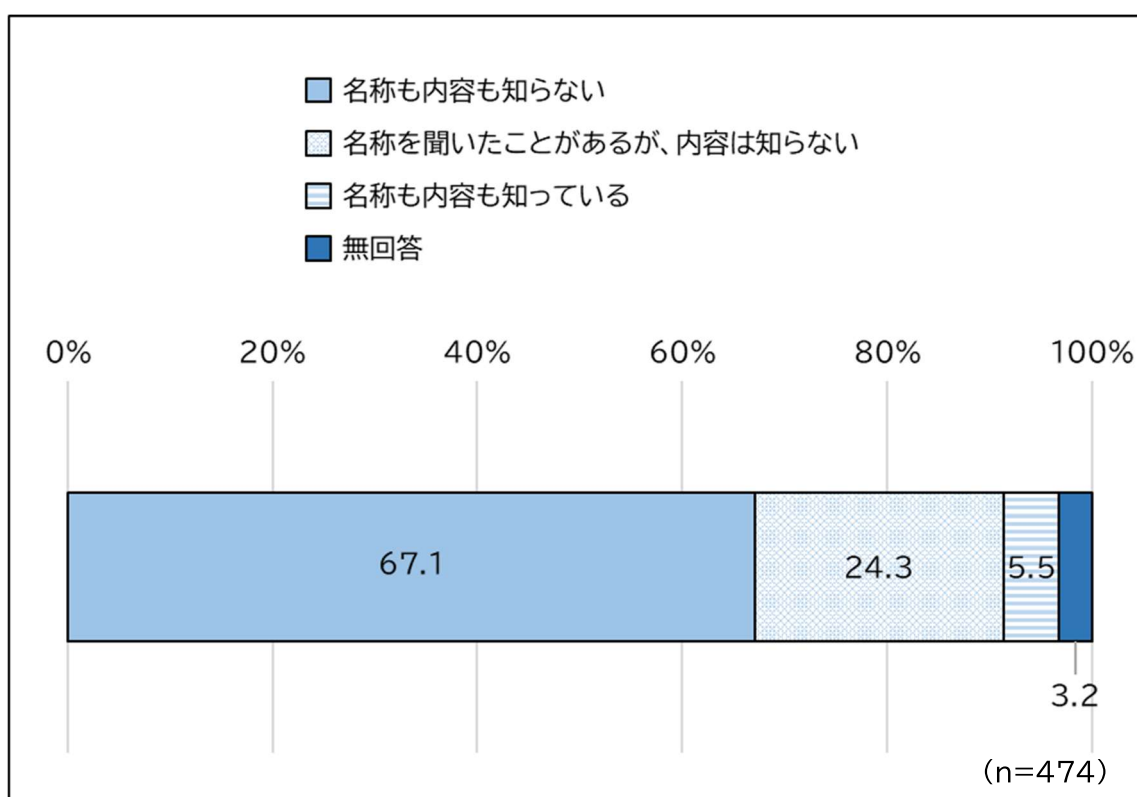


(2)「障害者差別解消法」について

問 14 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

「障がい者差別解消法」の認知度についてみると、「名称も内容も知っている」の割合が5.5%、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が24.3%、「名称も内容も知らない」が67.1%となっています。

図表17 「障がい者差別解消法」の認知度



6 まちづくりについて

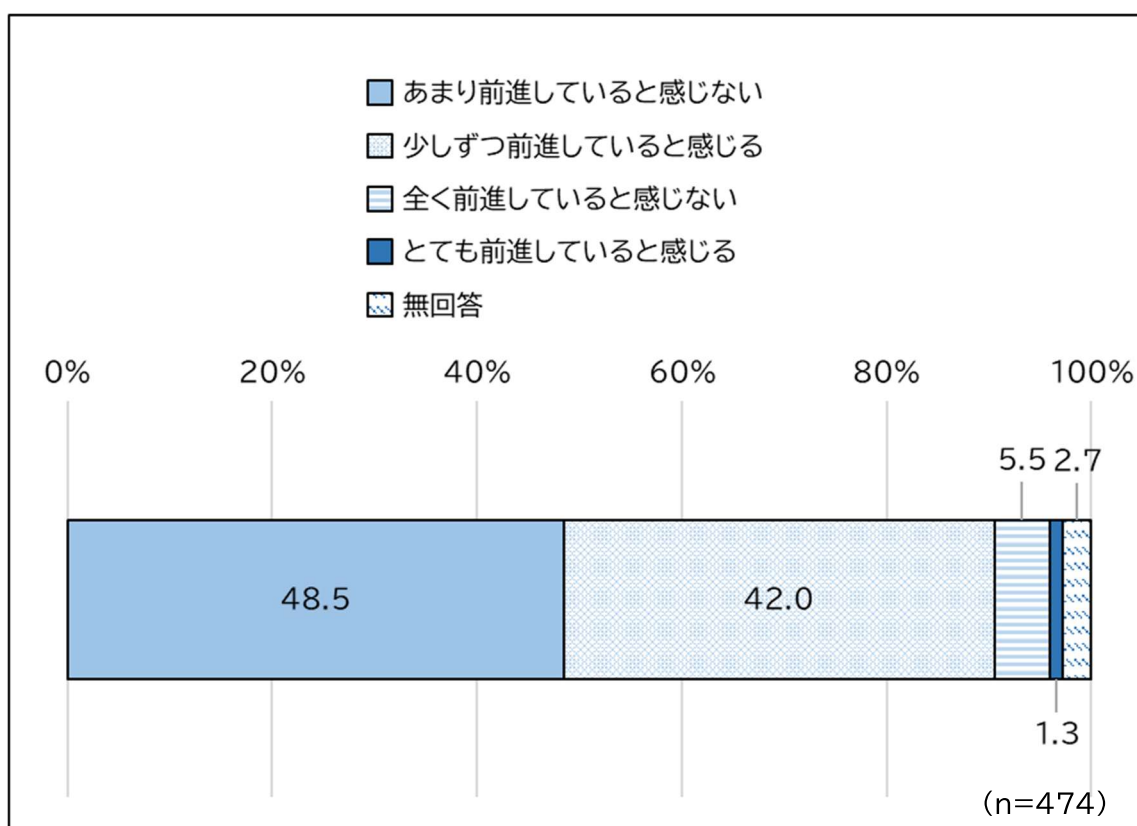
(1)地域共生社会について

問 15 あなたは、世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じますか。(1つに○)

世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じるかどうかについてみると、「とても前進していると感じる」の割合が1.3%、「少しずつ前進していると感じる」が42.0%、「あまり前進していると感じない」が48.5%、「全く前進していると感じない」が5.5%となっています。

また、「とても前進していると感じる」と「少しずつ前進していると感じる」を合わせた『前進していると感じる』人は43.3%、「あまり前進していると感じない」と「全く前進していると感じない」を合わせた『前進していると感じない』人は54.0%となっています。

図表18 世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じるかどうかについて

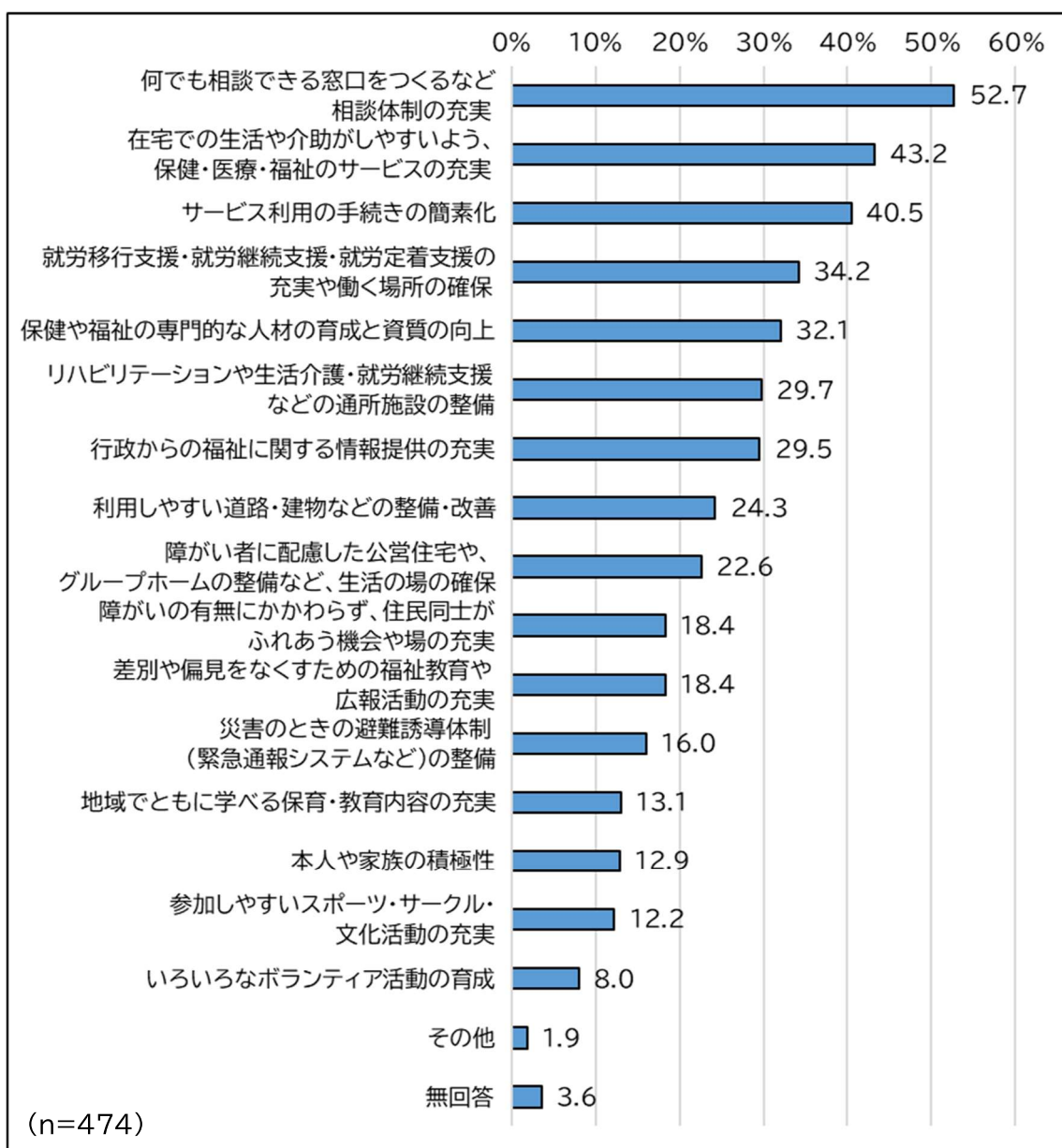


(2)住みよいまちをつくるために必要なことについて

問 16 障がいのある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(主なもの5つまで○)

障がいがある人にとって住みよいまちをつくるために必要だと思うことについてみると、「なんでも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」(52.7%)の割合が最も高く、次いで「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実」(43.2%)、「サービス利用の手続きの簡素化」(40.5%)と続いています。

図表19 障がいがある人にとって住みよいまちをつくるために必要だと思うことについて



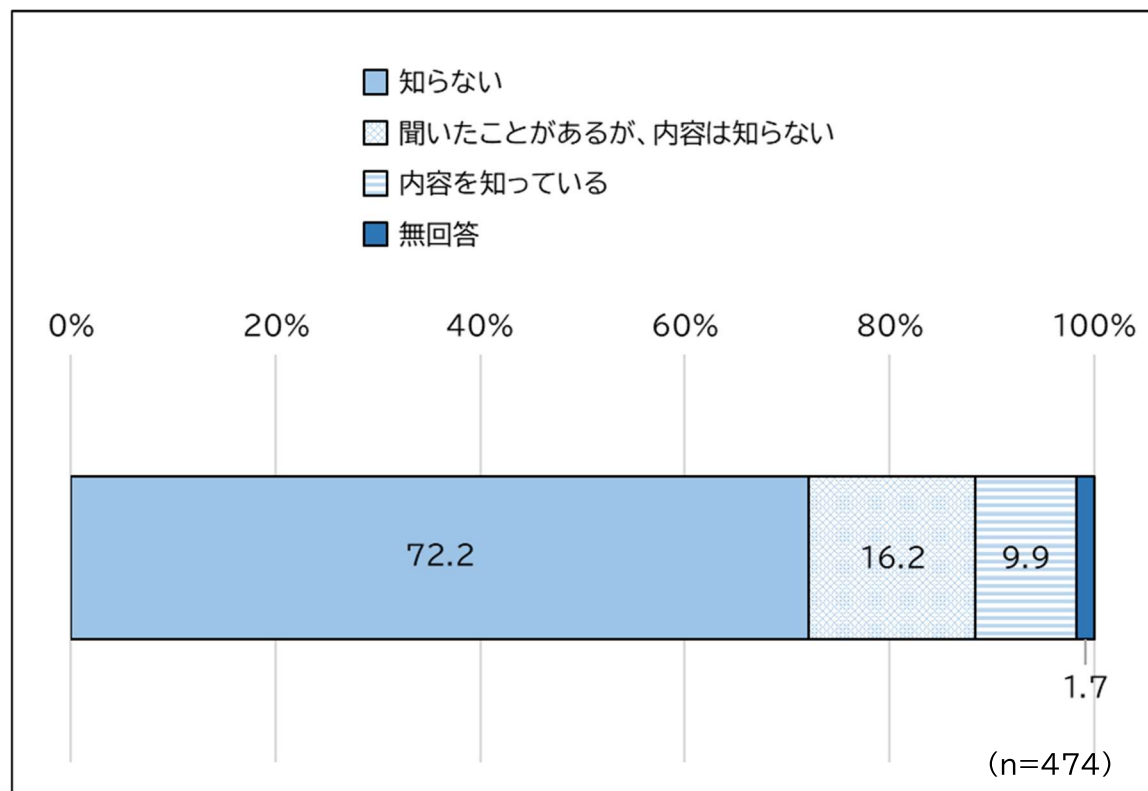
7 合理的配慮について

(1)「合理的配慮」について

問 17 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。
(1つに○)

「合理的配慮」の認知度についてみると、「内容を知っている」の割合が9.9%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が16.2%、「知らない」が72.2%となっています。

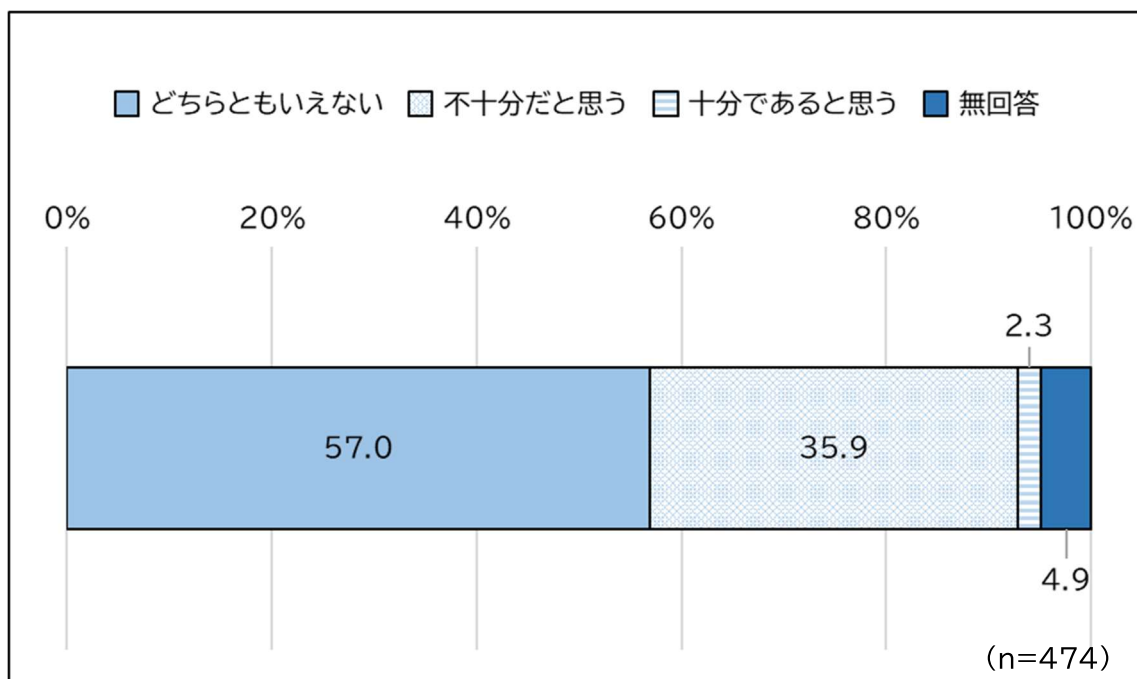
図表20 「合理的配慮」の認知度



問18 学校・職場・公共施設・商業施設・文化施設・スポーツ施設などで、障がいのある方への「合理的配慮」やバリアフリー対応が十分だと思いますか？(1つに○)

障がいのある方への「合理的配慮」やバリアフリー対応が十分かどうかについてみると、「十分であると思う」の割合が2.3%、「不十分だと思う」が35.9%、「どちらともいえない」が57.0%となっています。

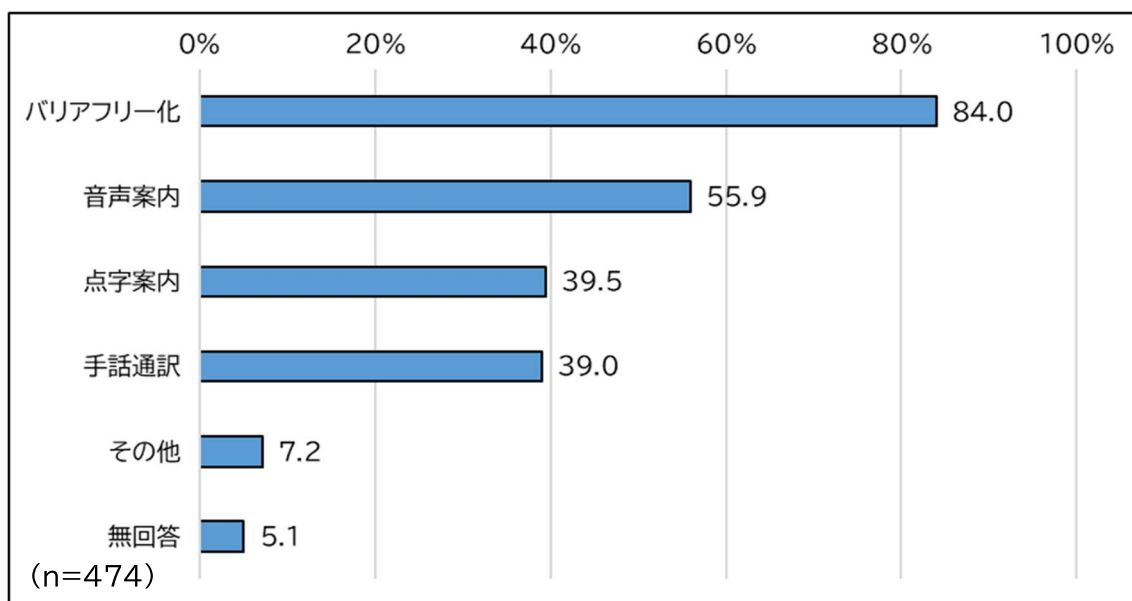
図表21 障がいのある方への「合理的配慮」やバリアフリー対応が十分かどうかについて



問19 「合理的配慮」として、どのような配慮が必要だと思いますか？(あてはまるものすべてに○)

「合理的配慮」として必要だと思う配慮についてみると、「バリアフリー化」(84.0%)の割合が最も高く、突出しています。次いで「音声案内」(55.9%)、「点字案内」(39.5%)、「手話通訳」(39.0%)と続いています。

図表22 「合理的配慮」として必要だと思う配慮



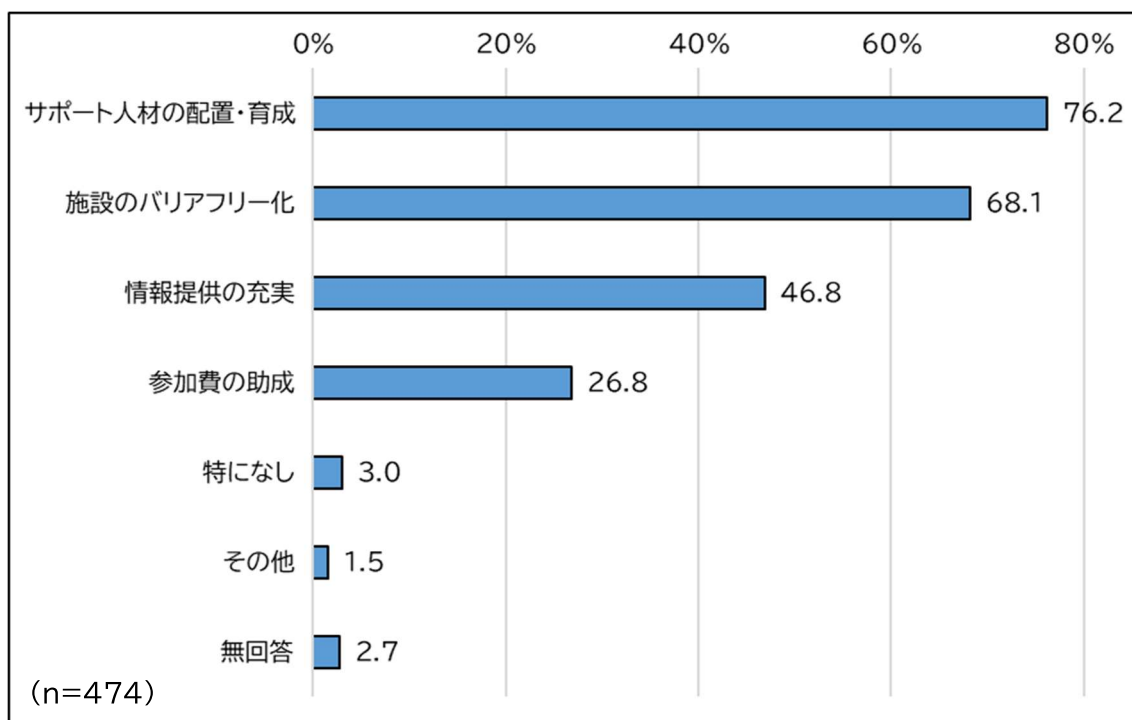
8 文化芸術やスポーツについて

(1)文化芸術やスポーツについて

問20 障がいのある方が文化芸術活動やスポーツ、余暇活動に参加しやすくするために必要だと思うことは何ですか？(あてはまるものすべてに○)

障がいのある方が文化芸術活動やスポーツ、余暇活動に参加しやすくするために必要だと思うことについてみると、「サポート人材の配置・育成」(76.2%)の割合が最も高く、次いで「施設のバリアフリー化」(68.1%)、「情報提供の充実」(46.8%)、「参加費の助成」(26.8%)と続いています。

図表23 障がいのある方が文化芸術活動やスポーツ、余暇活動に参加しやすくするために必要だと思うこと



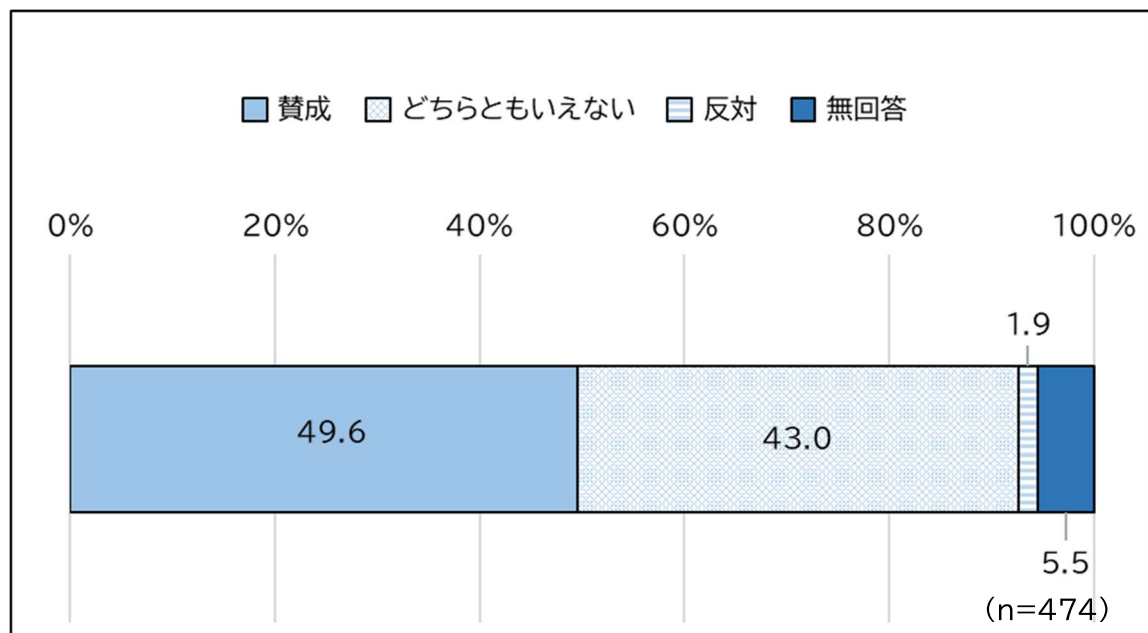
9 インクルーシブ教育について

(1)「インクルーシブ教育」について

問21 障がいのある子どもが、地域の学校や園で他の子どもと共に学ぶ「インクルーシブ教育」についてどう思いますか？(1つに○)

「インクルーシブ教育」に対する意見についてみると、「賛成」の割合が49.6%、「どちらともいえない」が43.0%、「反対」が1.9%となっています。

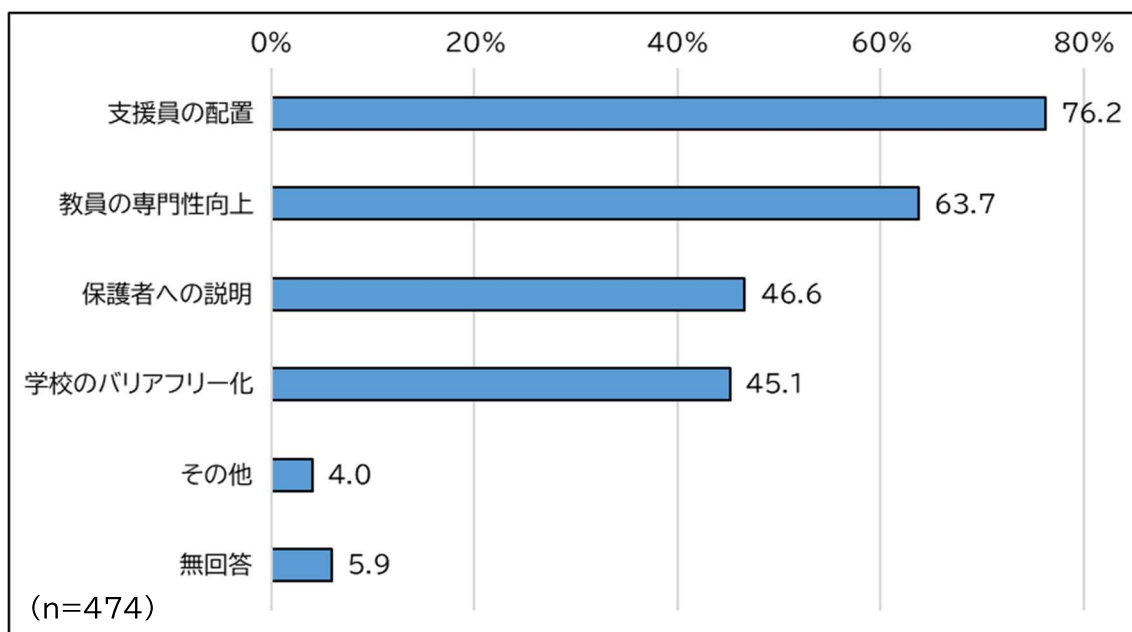
図表24 「インクルーシブ教育」に対する意見



問22 インクルーシブ教育を進める上で必要だと思うことは何ですか？(あてはまるものすべてに○)

インクルーシブ教育を進める上で必要だと思うことについてみると、「支援員の配置」(76.2%)の割合が最も高く、次いで「教育の専門性向上」(63.7%)、「保護者への説明」(46.6%)、「学校のバリアフリー化」(45.1%)と続いています。

図表25 インクルーシブ教育を進める上で必要だと思うことについて



※インクルーシブ教育とは、子どもたちの多様性を尊重し、障がいのあるなしなどにかかわらず、すべての子どもが共に学び合う教育のことです。誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合える共生社会の形成を目的としています。

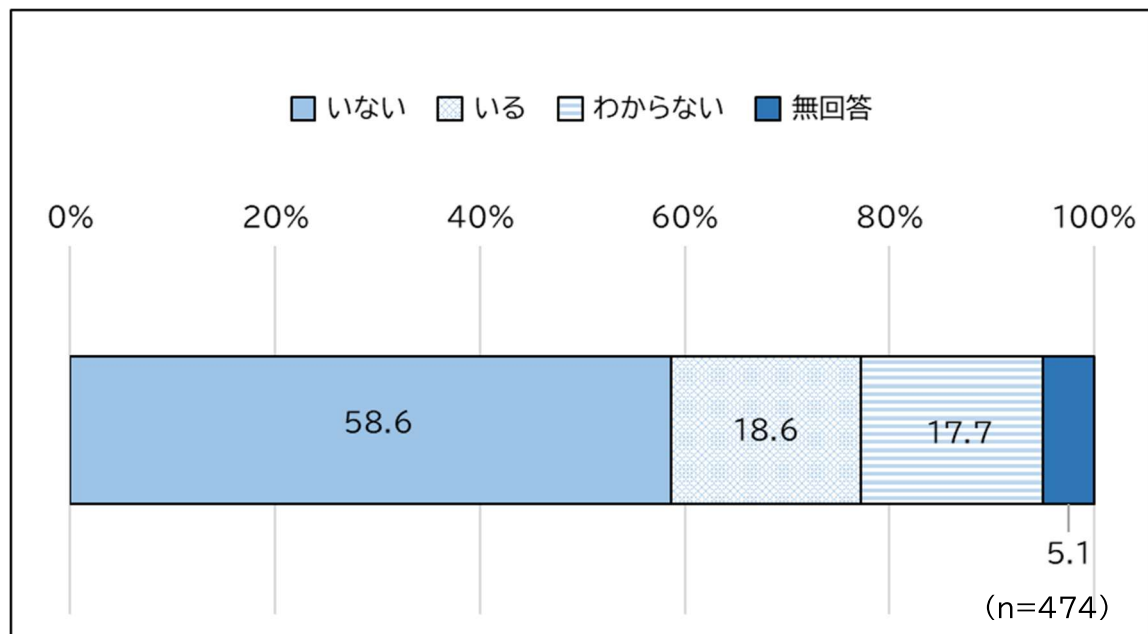
10 ヤングケアラーについて

(1)身近なヤングケアラーについて

問23 あなたの身近に障がいがある家族の介護や支援をされている方はいますか？(1つに○)

身近で障害がある家族の介護や支援をしている方の有無についてみると、「いる」の割合が18.6%、「いない」が58.6%、「わからない」が17.7%となっています。

図表26 身近で障害がある家族の介護や支援をしている方の有無

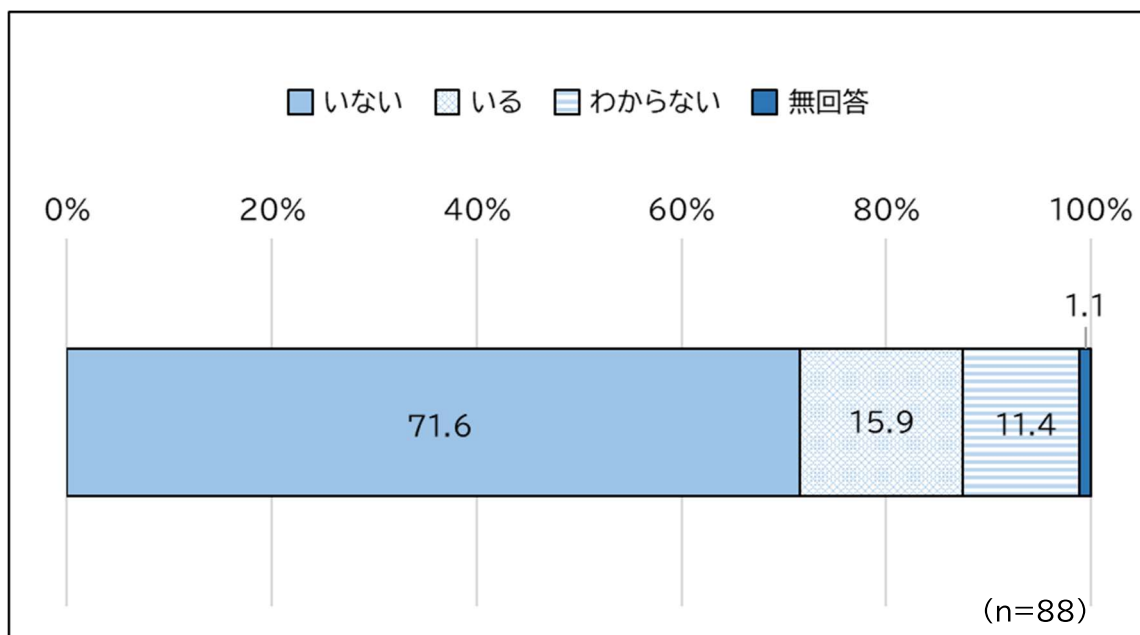


※問23で「いる」と回答した方

問24 介護や支援を、18 歳未満の子どもが担っている方がいますか？(1つに○)

身近で 18 歳未満で障害がある家族の介護や支援をしている方の有無についてみると、「いる」の割合が15.9%、「いない」が71.6%、「わからない」が11.4%となっています。

図表27 身近で 18 歳未満で障害がある家族の介護や支援をしている方の有無

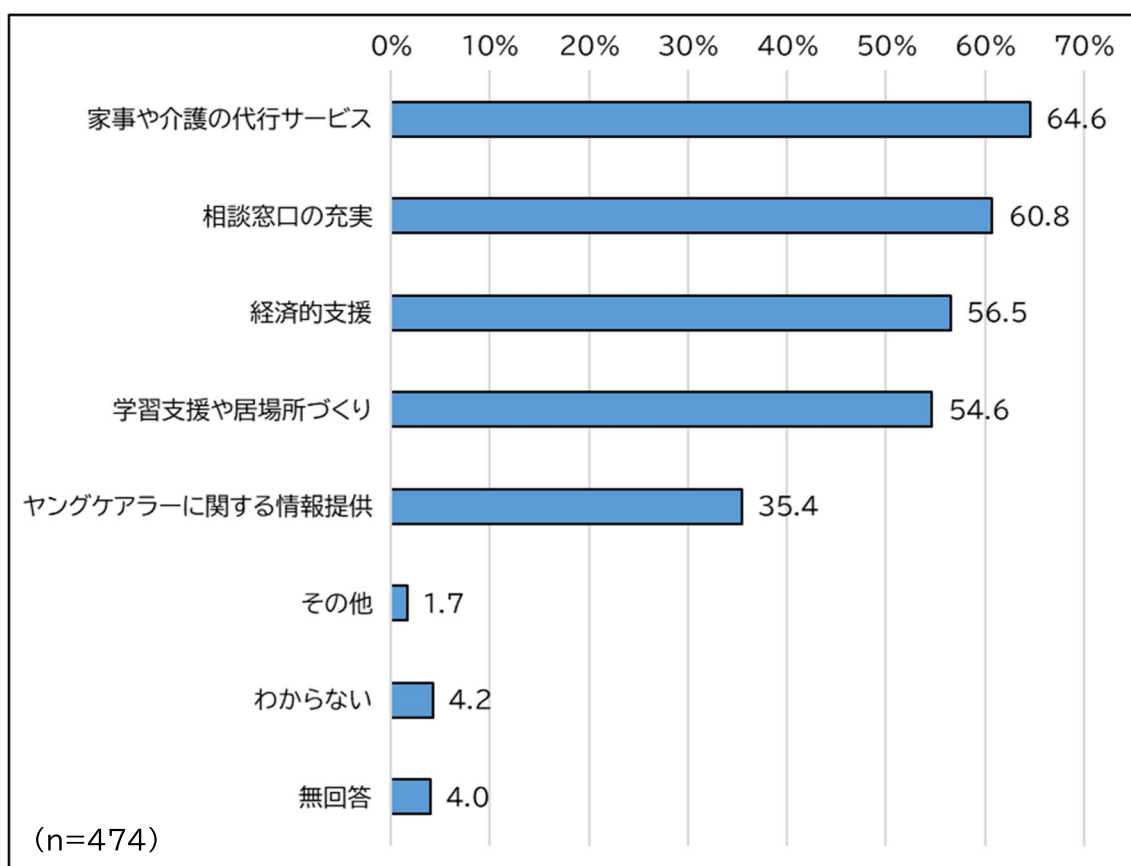


(2)ヤングケアラーへの支援について

問25 ヤングケアラーについて行政や地域にどのような支援があればよいと思いますか？(あてはまるものすべてに○)

ヤングケアラーについて行政や地域に必要なと思う支援についてみると、「家事や介護の代行サービス」(64.6%)の割合が最も高く、次いで「相談窓口の充実」(60.8%)、「経済的支援」(56.5%)、「学習支援や居場所づくり」(54.6%)、「ヤングケアラーに関する情報提供」(35.4%)と続いています。

図表28 ヤングケアラーについて行政や地域に必要なと思う支援



※ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを、日常的に行っている18歳未満(またはおおむね30代までの「若者ケアラー」含む)の子どもや若者のことです。家族を想う気持ちがある一方で、勉強や友人との時間、睡眠、将来の進路選択などに影響が出てしまう場合があることが課題となっています。

自由記述については、合計61件の意見が寄せられました。

19 自由記述

1. 福祉施設・設備について 5件

1	坂出市の病院で、脳卒中などの急患が来た時、対応できる状態になっている事が、すごく必要である。1 刻を争う時、どの病院に行っても診てもらえず、とうとう半身まひになってしまった。早く処置してくれれば、まだ動くことができていた。切実をお願いしたい。
2	子供が障害があり、放ディや児発を探した際、坂出市には圧倒的に数が少なく感じました。(市外の方から坂出の情報が全くないと言っていました)幼小のころからの支援がもっと増えてほしいと思います。
3	介護施設が少ないと感じています。高齢化社会が進むので経済的な負担が少なく入居できる施設や補助制度が充実していれば済みやすい街になると思います。
4	そもそも坂出は、古き良き街でもあるのでバリアフリーが進んでいない場所やお店が多いです。なのでまだでパッと見てわかる車椅子の障がい者を見ることは少ないです。新しく施設ができます。バリアフリーにはなっていると思いますが、そこへいく道に危険がないか徐々にバリアフリー化を進めていくことは大切だと思います。人が少ない平日を狙って外出したとしても助けてあげられる人がご高齢な場合が多いと思います。なのでより、バリアフリー化は大切だと考えます。どちらの安全のためにも。
5	放課後デイサービスの負担上限月額をもっと緩やかにあげてほしいです。通常の学童保育でトラブルになるためやっていけないので居場所がありません。放課後に支援員が少なくていいのでそういった子供のみが集まる無料の場の提供をお願いします。学校の体育館、自治会館、私立体育館の開放、新しくできる図書館の一部や、旧図書館をそういった施設にする等です。そうすることで放課後デイサービスの市の負担を減らせると思います。

2. 交通について 2件

1	今回の坂出駅の移動については、支援学校の送迎があるとは想定されていたとは、考えられず、それにより、生徒が命の危険に晒されることとなりました。このようなアンケートをされるのは大切だと思いますが、何か公共施設を作るにあたっての配慮(駐車場を一边に使えなくする、複数の工事を同時に行うによる聴覚過
---	---

	敏がある方への騒音)など、やる前にしっかり考えてからやっていただきたいと思います。
2	坂出は古い街で駅周辺は今開発しているが段差をなるべく減らしたり住宅エリアと駅や役所スーパーをつなぐバスなど車が無くても移動できる街にしてほしい。自分がもし急に障害者になった場合などを考えると坂出は市内の移動が貧弱だと思う。自動運転バスも待ち焦がれるがその場合車いすなどはどうなるかは分からないので心配。

3. 福祉サービスについて 7件

1	昔、保育所で1人居ましたが、せんせいがそのお子さんに付きっきりで目を離れず、本当に1:1ですね、人数確保が必須だと思いますが、難しいですね。
2	学童保育が利用できず療育施設に通う子供たちを持つ家族は長期休みの利用時間が短い為フルタイムで仕事をするのが困難です。全てを行政任せとは思いませんが、まだまだ子育て支援が福祉面今で届いていない気がします。
3	高齢者に対する福祉サービスは充実しつつあると思いますが、青少年・幼児援助についてはあまり理解できていません。障害のある方についてもよくわかっていません。
4	障がいと一言でいっても、身体・知的・精神と様々であり、理解や対応が進んでいるものもあれば、そうでないものもある。特に今後は精神障がいに対する理解やサポートが進んで欲しい。
5	学校生活を送れていない子供達へのアプローチ。本人・家族共に悩み考えどうすればよいのか日々不安心配生活するには働けなければならない、どうしてあげればよいのか？
6	坂出の事業所で勤務する障がい者の支援をする立場です、近親にも障がいを持った人もいます。障害者雇用を促進するには直接雇用ではなく間接雇用という手もあります。外注で仕事を出したり、請負で管理者と共に受け入れています。これだと企業もうんとハードル下がります。障害者雇用率に反映されないのがネックですが。弊社が使っているそういう仕組みも事業所は坂出にはありません、高松や宇多津、丸亀です。坂出のA、B型支援事業所には正直あんまりええところないんです。ちなみにお願いしているところは千手ピーノ、さんあい、あゆみ園です。そういうビジネスモデルを参考にして包括的な就労を目指すべきだと思います。企業に就労が安定とは限りません。今の企業にとって雇用はリスクです。一部の仕事を外部で委託できるとリスクヘッジにもなるし専門担当者の育成がいりません。企業では家庭や生活支援には介入できませんので。企業もギリギリで

	やっています。 そういういち意見、考え方もあると知っていただき仕組みづくりができればと思いますが。
7	障害者児童については、公立小学校、中学校は受け入れを拒否しているのが現状です。本人が行きたいと言えれば受け入れ、対応して頂きたいと思います。

4. 障がい者が住みよい社会・環境づくり 10件

1	数年前と比べると、障害者に対する理解や偏見は少しずつ改善していると思うが、社会参加は進んでいないと感じる。障害のある方が生きがいを持って、その人らしく生活が送れるよう、行政と市民が一体となって、みんなが自分らしく輝ける社会づくりを目指していく必要があると感じる。
2	障害のあるなしに関わらずみんなが住みやすい坂出市を望みます。いつも市民の為にありがとうございます。
3	障がい者ご本人もご家族も希望をもって暮らせる社会になりますよう祈ります。
4	障がい者といっても、いろんな障害者の方がいると思います。私は高校生の時、前の席の子がなんちゃうでした。でも見ただけではすべて分かりませんでした。目に見えてわかる障がい者、一見健常者に見える障がい者といろいろだと思います。それぞれの対応も違うと思いますし、障害者の住みよい街になることを願います。
5	障がい者が1人になっても安心してひびの生活が出来ればいいのにと 생각합니다。
6	障がい者の人を中心になる社会・市に成るようにすべき。
7	とにかく障害者を含め皆が幸せな日々を送れるような社会になることを願っています。
8	坂出市民が障害のある・なしに関係なく生活できる社会と望んでいます。
9	兎に角不自由なく、みんなと普通に生活できる環境にして欲しいです。意味のあるアンケートにしてほしい。
10	インクルーシブ教育によって子供の頃から色々な人と関わる機会を増やし差別を減らしていくのはとても大事なことだと思います。しかし障害といっても様々なものがあり度合いも違うので、全ての子供をいつも同じ環境で教育するというのは逆に多様性を阻害することになると思います。障害があるなしに関わらず、今のようみんなを一つの枠に入れるような教育ではなく、一人一人の個性を尊重し多様性を通して支え合っていける社会になるような教育をしていくのが大事だと思います。

5. 意識づくり・協力体制について 11件	
1	机の上の勉強も大事だが、外で友達と思い切り遊ぶことの方が良い人間が育つように思います。健常者も障害の合う方も一緒に。
2	障害のある方だけに優遇するのではなく、様々な人が触れ合える場所がイベントを企画にして欲しいと思います。また、モラルに欠ける人への教育も必要であると考えます。
3	一部の障害のある方から障害を持っている人は優遇されて当たり前というような態度を取られたことがあり、正直イメージが良くない部分もあります。判断が難しいところではありますが、優遇＝バリアフリーではないと思うので、障害の有無にかかわらず、市民が平等に暮らしやすい町になるといいなと思っています。
4	障害のある家庭はその子だけに目が行きがちで、他の兄弟のケアも重要だと思います。寂しい、甘えたいと人間なら誰しも親の愛情を必要としています。
5	知人に障害者があれば手助けできるが、知らない人ならおせっかいにならないように、ひと呼吸おいてするのはどうですか？
6	障がい者が特別ではないという考え方、接し方が大事かと外国人のように自然にふるまえる行動が大切。差別偏見の考え方をなくす方向に。
7	障がい者への支援を行政は少しずつ前進していると思うが、人の心に問題があるように思う。
8	坂出市がもっと障害の理解が必要だと！！差別も小さい子供から教育を！！よろしく頼みます。
9	親はつらいと思う、なんでこんなに多いのか？不思議です。みんなで協力しかないと思う。
10	パワハラ・セクハラを無くし、思いやりを持った言葉を言う
11	障がい者への援助は必要であるし、ある程度健常者との公平性は必要。しかしながら、障がい者にも自身がマイノリティである感覚は必要。最近はマイノリティを中心に物事を考えすぎている気がする。障がい者も健常者も自分自身が全体の中の一部でしかないという感覚が欠如しているように思う。

6. 情報提供・相談支援について 6件	
1	これから積極的に情報収集をしたいと思います。わからないことが多いので。
2	障害の有無に関わらず積極的な地域間交流の場の必要性を改めて期待します。
3	情報提供及び収集
4	支援に関する情報の発信を十分すべきだと思う
5	障がい者やその家族の生の声を聞く機会がない

6	インクルーシブ教育、ヤングケアラーなどの件について、大変難しく、時代の流れについていけない状況にある
---	--

7. アンケートについて 6件	
1	障害と言ってもたくさん障害があるので、今のアンケートはバリアフリーという言葉が多く見えたので、障害と行ってももう少し砕いた方がこちらとしてももっと明確に答えられるかと思います。アンケートの意味がないと思います。
2	今回のアンケートは障害手帳を持っている方が対象者だったのでしょうか。もし上記のアンケートであれば、回答ズレています。申し訳ありません。
3	障害といっても生まれつきか途中からなのか、身体的、知的、色々あるので回答が間違っているかもしれません。すみません。
4	色々な面で困っている人に対して、このようにアンケートを取ったり考えを深めていくことは、ありがたいことだと思います。福祉によって大変なことから救われることが多いと思いますので、宜しくお願いします。
5	障がい者とひとくくりにはしているが、しんたい・知的・精神・発達障害とある中で、どの障害者を対象に回答するべきか悩んだ。身体障害者目毛のサービス体系に知的や精神、発達障害を無理やり当てはめていくようなことにならないようにしていただければと思う。
6	「障がい」の定義がはっきりせず、人によってイメージしているものが違うため、回答が難しいと思いました。例えば知的障がいと身体障がいでは、回答内容が変わってくると思います。なお、質問には大人の発達障がいも含まれるのでしょうか？合理的配慮とは、支援を受ける側が「申し出」て初めて機能するものであり、支援者側の負担にならない範囲で、となっていると思います。「合理的配慮」そのものが必要なのではなく、合理的配慮に至るまでの議論のプロセスこそを大事にしなければならぬと思うのですが、残念ながら質問項目からはその意図は読み取れませんでした。また、インクルーシブ教育も、単に「障がいのある子と一緒に授業を受けられるように」と解釈してしまった場合、所謂健常者の子どもの知能に合わせて学習指導要領が組まれているため、知的障がいがある子どもは全く内容についていけず、自己肯定感が低下するという二次障害を引き起こす可能性が高くなります。パニック障害などを引き起こした場合、人手も教室も足りていません。さらに、人権教育が教職員・保護者・市民全体で確立できていない場合、(現実問題として)子どもたちは「自分より出来ない子・自分たちと違う子」をイジメの対象にします。それをよく理解しないまま理想論だけでインクルーシブ教育を進めることは大変危険です。障がいのある子どもが、特別支援学校に入れば適切な就労支援を受けられる一方、通常学級に入れば「成績の悪い、努力をしない子」と見なさ

	れることもあります。国はインクルーシブ教育を推進していますが、もっと現場の声を聞いてからの方が良いと思います。
--	---

8. 行政について 4件	
1	現在は障害者も情報機器や器具で健常者と同等の生活が出来るようになり筒有るので、それを促進する行政企業が必要と思う
2	学校に置いて、エレベーターの設置や特に ASD、LD に対する理解の理解、配慮が先生自体が理解していないので、市として勉強会などを教員にすべき。市の窓口が丸亀市に比べて遅れている。
3	教育委員会との連携をお願いします。昭和生まれ教員に対しての再教育をして欲しいです。目に見える障がい者には理解がありますが、目に見えない障がいの児童や学生に対して理解のない教育者が見受けられます。
4	障がいのある子どもが幸せだと感じる自治体でなければ発展はないと思っています。坂出市に期待しています。

9. その他 10件	
1	障害を持つ方々が働ける機会をもっと増やすべきです。施設や情報提供も重要ですが、金銭的理由からそれらを利用できれば意味がありません。医療や福祉にもっと人材や予算を割くべきです。どの家庭も物価高等で苦しいですが、慢性的な貧困に苦しんでいるのは誰か考えて下さい。(私が障害を持っているために、提言して言うものではありません。)
2	私のちちが障がい者なので将来とても心配です。家族で支え合ってはいますが、高齢になり、家族はどうしようもなくなった時は優先で入居出来るような施設があれば助かります。
3	身近にいないのでわかりませんが障がい者さんもいろんな人がいると思います。直面したら周りの人たちと相談しながらしていこうと思います。
4	私は小学生の時同級生に足の不自由な子がいました。その子はほぼみんなと同じことをしていました。私たちはそれが当たり前のことでした。できないことは助けるのも当たり前のことでした。今思えばその子にとってはどうだったのかはわかりませんが私たちにとっては特別なことだったのかもしれない。
5	今まで生きてきて、人に感謝すること、優しくすること、やっとわかりました。アンケート調査ありがとうございました。
6	障がいを持つ人にたずさわる仕事をしていた自分が年を取って、自らも障がい者になってしまったこと。本当に家族の人たちありがとうございます。

7	知らない事もあり勉強になりました。
8	難しい問題かもだがいい方向に進めてほしいです。
9	頑張ってください